

あとがき

◇甲府市史編さん事業は昭和五十七年の一年間を準備の期間に充て、翌五十八年から実質的に着手し、以後ほぼ計画に沿った進展をみせ、間もなく終止符を打とうとしている。

◇今号は、本事業の総集編と位置づけ、どのようなプロセスを経て市史編さんをすずめてきたかを一眸できる内容とした。これは中心となった市史編さん委員会が自らの足跡を印しておこうとする願いもさることながら、今後、斯様な事業を手がけられるであろう他の自治体誌のご批判・ご参考の対象になればと、そんな思惑もある。事細かな「事業日誌」を掲載するのにはためらいもあったが、委員各位の提言に従い載せ

が、市史編さん事業の総経費を算出した年度ごとの「経費見込」は、以後各年の予算確保を円滑なものにした。

その反対に人員確保の要求は、かいじ国体（S 61）、全国スボレク（S 63）、市制百周年記念事業（H元）など、大型イベントの影響を受け、ままならず、ついに専任職員二名で終始した。それに市史編さんの最後の到達点とも言うべき「史料館」の建設は、実現には今も遠い位置にあり、委員各位から寄せられたコメントを、事務局はもとより関係当局は肝に銘ずるべきであろうと、思う。

◇座談会「甲府市史編さんを終えて」では市長、委員長並びに各専門部会長から存分に伺えた。本来なら各部会ごとで同様に行いたかったが、日程が許さず、代わりにコメントをお願いするところとなった。様々な貴重なご見解は、本号にふさなつた。

室はこの三月末日を以て閉じ、史資料は、一部残務とともにへ移管し、市立図書館へ引継いでいる。その後の展望としてに建設が予定されている新市

立図書館で、有効的に保存・活用される見込である。

◇本号は市史編さん事業の総集編としたが、ここでは敢えて「終刊」とは言わない。一先ず「休刊」として置きたい。今後、歴大な史料の整理を通じて、必ずや「市史研究」誌の続刊が求められると思うからである。◇かくして、十年余を要した事業は終わる。この間、ご執筆いただいた先生方をはじめ、実に多くの方々のご支援・ご協力を賜った。事務局一同、真心こめてお礼を申し上げます。（高木）